

# 平成20年2月学術講習会

(社)日本鍼灸師会  
(社)東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 674 回

(2008.2.24)

..... 演題および講師 .....

スポーツ鍼灸学 悪天候により飛行機欠航のために代講となりました。

## ・「スポーツ鍼灸師の臨床能力」

スポーツ障害の歪みの調整からパフォーマンスアップへ

社団法人日本鍼灸師会常任理事 学術局長 小松 秀人

鍼灸治療編

## ・「ストレス疾患と鍼灸治療」

神経症と心身症を中心に

明治鍼灸大学 臨床鍼灸学教室 内臓機能系鍼灸学 講師 福田 文彦

## 「スポーツ鍼灸師の臨床能力」

スポーツ障害の歪みの調整からパフォーマンスアップへ 小松 秀人

悪天候により飛行機欠航のために代講となりましたので、抄録はございません。

尚、ビデオ頒布もございません。



社団法人日本鍼灸師会常任理事 学術局長 小松 秀人

## 「ストレス疾患と鍼灸治療」

神経症と心身症を中心に

福田 文彦

現代社会のストレス背景には、価値観の多様化、伝統的地域共同体の崩壊、核家族化、人間関係の希薄化、IT革命に代表される急速な近代化、管理社会、競争社会などがある。また、高齢社会においては、心身の老化、慢性疾患も大きなストレスである。このようなストレスにより心身ともに体調を崩し、鍼灸治療に来院される患者は増加している。

鍼灸師がストレス疾患に対応していくためには、鍼灸医学的理論や治療の他に

以下の内容が必要である。

1. ストレスによる精神症状・身体症状・問題行動は検査値などでは現れにくいので、それを判断する知識が必要である。ストレス・精神症状・身体症状との関係を理解する。
2. ストレス疾患の患者は、身体症状を訴えて来院するので、ストレスとの関連や精神症状を上手く聞き出す。
3. 良好な患者 - 鍼灸師関係やカウンセリング的アプローチ(傾聴、共感、適切な指導など)も必要である。

ストレス疾患の基礎知識として、神経症、心身症、うつ病(心因性のうつ状態)の特徴を理解する必要がある。どの疾患もストレス(心因)が原因として存在しているが、神経症は非器質的で機能的症状、心身症は身体病を発症、うつ病は憂うつ気分(抑うつ気分)を中心とした精神症状・身体症状の両方がでることが特徴である。

鍼灸治療に際しては、最初に適否の判断が必要である。軽症では、鍼灸治療単独でも効果は期待できるが、重症では西洋医学的治療との併用が必要である(重症と軽症の判断は、社会や家庭生活の中で本人や周囲の人がみて、普通の生活を行えるか否かで判断する)。演者は、患者の訴える身体症状に対する治療、鍼灸医学的弁証に基づく治療を併用して行っている。身体症状の緩和は、患者の精神状態の安定につながるため有効である。弁証は「肝」に関係する病証(肝鬱気滞、肝腎陰虚など)をあらわすことが多く、太衝、合谷、百会などを使用する。演者の経験では、四神聡は特に有効である。

ストレス疾患に対しては、患者の訴えを傾聴して共感する面接を行い患者自身による「気づき」「受容」「対処」を引き出し、誤った認知を改善させることも鍼灸師の出来る治療方法であるが、正しい知識が必要である。

鍼灸治療が単独で適応するのは軽症であるが、この状態で適切な鍼灸治療を行えば重症化への予防・防止が期待でき、ストレス社会の我が国における健康管理の一助になると考える。



明治鍼灸大学 臨床鍼灸学教室 内臓機能系鍼灸学 講師 福田 文彦